

【青森】県内初、肥満症治療の専門機関が開設-藤田征弘・弘前大学医学部附属病院肥満症・栄養治療センター長に聞く◆Vol.1

背景に高い肥満率、平均寿命最下位の改善も視野に

2025年8月20日（水）配信 m3.com地域版

2025年5月、弘前大学医学部附属病院（弘前市）に「肥満症・栄養治療センター」が開設された。肥満症の治療を専門に行う機関は青森県では初めて。院内の多職種が連携して栄養・運動指導や内科・外科治療を行う。同県の肥満率は全国平均を上回っており、肥満に伴う病気の死亡率も高い。「短命県である青森の寿命延伸にも貢献したい」と話す藤田征弘センター長（内分泌代謝内科学講座教授）に、開設の経緯を聞いた。（2025年7月29日オンラインインタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)（近日公開）



藤田征弘氏（大学ホームページから引用）

「これまでは岩手医科大まで行く必要があった」

——肥満症の治療を専門に行う機関は県内では初めてだといいます。まずは、構想の端緒をお聞かせください。

青森県に肥満症の手術を行う医療機関がなかったことが挙げられます。弘前大学から最も近いところでは隣県にある岩手医科大学で行われていますが、本学からは車で少なくとも2時間以上かかり、青森の患者さんには通いづらい状況が続いていました。私の母校であり、過去に勤務していた滋賀医科大学では内科と外科が連携して手術も行っていたので、当時の知見も踏まえ、専門的な受け皿の必要性を感じていました。「しっかりと治療できるところが県に一つはあった方が良さだろう」と、私が主宰する内分泌代謝内科学講座の医師などと話していました。その後、2023年11月に厚生労働省が肥満症の治療薬「ウゴービ」を保険適用の対象とすることを決めました。

新薬の登場によって患者さんへの貢献度向上が期待されましたが、それだけでは総合的な治療を行っているとは言えません。そこで私は袴田健一院長に相談しました。袴田先生は2023年に病院長に就任され、消化器外科を専門としています。腹腔鏡下で胃の一部を切除する肥満症の手術は同外科の領域です。袴田先生は「やりましょう」と理解を示してくださり、組織化にあたってのアドバイスもいただきました。

男女とも平均寿命が最下位、働き盛りの死亡率高く

——資料によると、開設の背景には青森県の肥満率も関わっているそうですね。

青森県では成人の肥満率が男女とも全国平均を1割近く上回っており、20～30代の若い人や子どもの割合も高い傾向にあります。若い女性の場合、全国的には痩せている方が問題になりやすいのですが、青森では逆です。肥満の度合いが高まるほど死亡リスクも高まり、実際に青森県では糖尿病やがん、脳血管障害など肥満に伴う疾患での死亡率がいずれも全国ワースト10位以内の状況です。

——青森県はなぜ肥満率が高いのでしょうか。

原因は複合的だと考えられます。寒さの厳しい東北地方では冬に運動不足になりやすく、また、地方特有の車社会がそれを助長します。ほかに、ファストフード店の増加や不規則な生活、塩分の多い食事、ストレスなども関わるでしょう。国民の肥満率が約40%のアメリカではその理由に経済格差が挙げられますが、青森県も都市部より一次産業に従事している人が多いため、そういった社会状況を考慮する必要もあるかもしれません。

——藤田先生は、医師として長く糖尿病や内分泌代謝疾患を専門に診療・研究を行ってきました。自身の専門性を踏まえての問題意識もあったのでしょうか。

そうですね。青森県が長く「短命県」であることが、生活習慣病を診ている医師としては憂慮すべき状況だと考えていました。厚労省が公表した2020年の都道府県別生命表によると、青森県の平均寿命は男性が79.27歳、女性が86.33歳といずれも全国で最下位であり、男性は1975年から10回連続、女性は95年から6回連続の最下位となります。

私が抽出したデータも参考になると思います。過去の統計情報から平均寿命と健康寿命の差を各年代で算出したところ、青森県が全国の都道府県の中で最も小さいという結果が出ました。世界的な長寿国である日本では平均寿命と健康寿命の差が比較的大きく、健康寿命の延伸が課題となっています。しかしながら、意外なことに青森県ではこれらの差が小さかった。ということはつまり、不健康な期間が短く、若くして亡くなる人が多いか、あるいは病気になってすぐに亡くなる人が多い可能性が想像されます。

——興味深い着眼点ですね。若い人や働き盛りの肥満症にアプローチすることで、短命県の改善に寄与する可能性があるかもしれないと。

それが、私たちの狙いでもあります。青森県で専門的な肥満症の治療ができる環境を整え、肥満症とその合併症を治療していくことで、県民の健康増進ひいては寿命の延伸に貢献したいと考えています。長く続く「平均寿命最下位」という結果を少しずつでも改善していければ、との思いです。

◆藤田 征弘（ふじた・ゆきひろ）氏

1993年滋賀医科大学医学部卒。ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）への留学を経て、2007年から2018年まで旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野の特任助教、助教、学内講師。2018年から2023年まで滋賀医科大学内科学講座糖尿病内分泌・腎臓内科の講師（学内）、講師、准教授、診療教授。2023年10月から弘前大学内分泌代謝内科学講座教授。2025年5月から同大肥満症・栄養治療センターセンター長。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

